

# 家庭教育学級運営の手引き



都城市教育委員会

## 《目 次》

I	家庭教育の意義と家庭教育学級……………	1
II	家庭教育学級開設の手だて……………	2～8
	1 開設準備委員会をつくる	
	2 準備委員会の開催	
	3 行政側の指導助言	
	4 学級運営委員の選出と学級運営委員会の開催	
	5 学級の運営	
	6 学習計画及び内容	
	7 学習方法	
	8 学級の開級	
	9 学級の閉級	
	10 全般的反省と評価	
III	家庭教育学級の運営手順……………	9
IV	司会者の役割（任務）……………	10
V	学級組織……………	11～12
VI	学習プログラム参考例……………	13～15

# I 家庭教育の意義と家庭教育学級

## 1 家庭教育の意義

家庭教育は、全ての教育の出発点です。これからの社会を生きる子どもが、親子の絆の形成に始まる家族とのふれあいを通じ、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりなどの基本的な倫理観・自制心や自立心、そしてそれらの基本となる健康など「生きる力」の基礎的な資質や能力を培う最終的な責任を負うのが家庭だからです。

家族の団らんや共同体験の中で子どもが「生きる力」をつけ、自らの役割を見出し主体的に担っていくような家庭を作ること、子どもの個人的な成長にとどまることなく、家庭・地域社会・国家の発展につながるものです。

## 2 家庭教育学級開設のねらい

親又はそれに代わる保護者に、家庭における子どもの養育と教育を行うのに必要な知識や技術を学習する機会を提供することを目的として開設されるものです。

そこでは、子どもの教育に対する問題意識を掘り起こし、かつ自発的に課題を解決する学習活動ならびに実践活動が行われます。その目標は、次の3点です。

- ① 家庭教育における親（大人）の教育的態度を確立する
- ② 家庭教育に対する正しい考え方を養う
- ③ 明るくよりよい家庭環境を考える

また、この学級を核にして、地域の家庭教育に対する関心を高め、個人学習やグループ学習への発展も期待されています。

## 3 家庭教育学級の歴史

- 昭和20年 「社会教育の振興に関する件」（文部次官通達）  
家庭教育振興のために「母親学級」の開設委嘱奨励が行われ、その後「婦人学級」「成人学級」へと発展する。
- 昭和22年 「社会学級」が新設され、婦人のみによる学習機会だけでなく一般成人を対象として奨められる。
- 昭和24年 社会教育法が制定され、小・中学校の学校開放講座として位置づけられる。
- 昭和30年頃から、社会の変貌と家庭生活の変化に伴って、青少年の非行が目立ってきた。また親の家庭教育に関する自信喪失、進学競争の激化のひずみが派生し、家庭教育の重要性が強調される。
- 昭和37年 家庭教育振興費の予算化と施策（文部省）
- 昭和38年 家庭教育学級開設費補助金を制度化  
1 小学校区1学級開設を目的として学級が漸増し、学習が活発化する。
- 昭和46年 家庭教育学級の開設及び運営について
- 平成11年 家庭教育手帳の配布について
- 平成18年 改正教育基本法において新たに家庭教育の条項が加わり、家庭教育支援に対する国及び地方公共団体の責任を明文化した。

## Ⅱ 家庭教育学級開設の手だて

### 1 開設準備委員会をつくる

学級を開設し、学級運営が円滑に進められるためには、開設準備に携わる人たち（委員）の広い視野からの英知を結集して、的確な方策を立て、効果を上げるようにしなければなりません。

【準備委員として考えられる構成員】

学校長、PTA 会長、成人教育（教養）部長、前学級長、前副学級長、公民館長、家庭教育学級担当職員など

### 2 準備委員会の開催

市教育委員会の学級開設希望の有無調査に応じて準備委員会を開催し、開設の準備に当たります。

A 準備委員会で検討すべき事項

- ① 前年度の学級運営の反省と問題点
- ② 地域における家庭教育の実態や問題点
- ③ 本年度の学級開設の必要性

B 必要と認めて検討する事項

- ① 学習対象の決定と定員
- ② 学習主題と目標の設定
- ③ 学習計画の概要作成
- ④ 学習開始の時期、募集方法と期日
- ⑤ 学級の形態（補助・自主）と予算
- ⑥ 開設の場所

### 3 行政側の指導助言

家庭教育学級は、成人教育活動の一環として、必要に応じて行政の指導助言を受けることができます。

【主なものとして】

- ① 学級開設のねらい
- ② 準備委員会の持ち方  
委員構成、会議の内容、学習形態と予算措置など
- ③ 運営委員会の持ち方  
運営委員の選出方法、役員や係の役割任務、学習計画の立て方、講師選定など
- ④ 実態調査の方法  
調査対象、調査の方法と留意点

## 4 学級運営委員の選出と学級運営委員会の開催

市教育委員会で行われる学級開設説明会に、準備委員の代表が出席して説明を聞き、学級生の募集に当たります。

学級生の申し込みを受理整理した後、学級運営委員(以下「運営委員」)を選出し、学級運営委員会(以下「運営委員会」)を開催します。運営委員会では、次の事項について話し合います。

- ① 役員を選出する……学級長・副学級長・書記・会計
- ② 各係を置く……会場・記録・広報・出席・レクなど
- ③ それぞれの役割分担を考える
- ④ 準備委員会で打ち出した開催事項や、あらかじめ回収したアンケートをもとにして学習計画を検討し、年間計画の素案を作る
- ⑤ 予算を立て会費の額を決める
- ⑥ 学習の期日を決める

## 5 学級の運営

### A 学級主事の仕事

- ① 運営委員会に出席し、学級長を助け、円滑な学級の運営を図る
- ② 学級運営・学習計画・学習方法などについて相談にのり、指導・助言を行う
- ③ 講師の選定、帳簿の整理など慣れない事務について具体的に助言を与える

### B 学級長の仕事

- ① 学級を代表し、市家庭教育学級長会に出席する
- ② 運営委員会を主催し、学級の円滑な運営を図る
- ③ 性別・年齢・職業・環境など、多様な学級生の希望・要求をできるだけ集約し、学習活動に反映させるよう努める

### C 自主的な学級運営

- ① 運営委員、係の役割分担をはっきりする
- ② 家庭教育(子育て)に必要な学習内容を検討する
- ③ 仲間づくりになるような計画を加える

家庭教育学級は、学級生同士が仲間意識を持つことが大切で、「学習への参加が楽しい」ということが要求されます。

お互い遠慮なく話し合える家族的雰囲気の中で、学習が進められことが望めます。そのため的手段として、野外研修や学習前後における歌唱、室内レクリエーション、軽スポーツ、会食などが考えられます。

- ④ 学習活動の変化を考える

【なごやかな雰囲気をつくるため】

- (イ) 机上にネームプレートを置く
- (ロ) 各係の役割は順番にするなど、一人一役でみんなが働けるようにする

(ハ) 座席配列は出席者の多少によって工夫する。なるべくみんなの顔が見えるような配列にする

⑤ 広報活動を活発にする

家庭教育学級が全員の意思によって運営され、活動が少数の人たちだけのものにならないためにも広報活動は必要です。欠席者に成果を伝え、共有することも必要です。

広報誌の内容としては、学習内容のあらまし、学級生として理解しておきたいこと、学級生の声の紹介、随筆、子どもの作文、詩などを盛り込み、相互啓発を活発にしましょう。

D 必要な帳簿類を整える

- ①出席簿 ②学級日誌（記録簿） ③会計簿 ④講師謝金領収書  
⑤広報等書類つづり など

## 6 学習計画及び内容

A 学習展開の内容と手順の立案は、あくまでも学習の主体である学級生によって行われることが大切です。

※注意事項

- ① どんな人が対象か
- ② どんな学習内容を用意するか
- ③ その理解のためどんな学習方法をとるか
- ④ だれを講師にするか
- ⑤ どんな教材を準備するか

B 前年度の学習展開の反省を参考にし、以下の点に配慮して学習計画・内容を決定します。

① 学習内容に学級生の意思・要望が反映されるように努める

アンケート調査は、「何を学びたいか」というような抽象的な調査でなく「子どもを育てる上で、今困っていることは何ですか」というような具体的な設問が望ましい。

② 学習計画の立案は、運営委員の手で練る

学習計画の立案は、ややともすると要求課題中心となり、必要課題は軽視されがちです。運営委員が学級生の意思を尊重し、それを土台にして自分たちの学習計画を立案します。

なお、留意すべきことは、要求課題と必要課題の調和を図ることです。

③ 学習内容の分量は適当になるよう配慮する

学級生の意思を尊重するあまり、趣向的な学習課題の羅列に終わることなく、多様な要求の中から、共通性・関連性を見出し、なるべく単純化・少量化をはかり、その中で自己達成感なり充実感を持たせることが大切です。

④ 中心課題を持ち、学習内容の適切な配列を考える

学習内容の配列は連続性・発展性・弾力性が必要です。また学習の「山場」の設定も必要です。

⑤ 適切な学習活動の手だてを図る

毎回の学習に漫然と参加することなく、積極的・意欲的に取り組む姿勢を作るように努めましょう。

- (イ) 事前学習をして学習に望むようにする
- (ロ) 自分自身の家庭を振り返る
- (ハ) 調査活動をする

## 7 学習方法

① 学習の目的、内容に応じた学習方法を配慮する

学習方法の決定は、運営委員と指導者の両者間で緊密な打ち合わせが必要です。一般的には講義が多く利用されますが、学習内容や過程に応じて、話し合い学習、映画(ビデオ)、フォーラム、調査学習、見学などを活用するといいいでしょう。

② 資料、テキスト、視聴覚教材などの活用

教材には、映画、テレビ、スライドなどの視聴覚教材や、新聞、作文、テキスト、統計図表などの教材がありますが、まずどう利用していくかを考えます。

- (イ) 学習の手がかりとして利用するのか
- (ロ) 課題解決への資料として利用するのか
- (ハ) 講義や話し合いのまとめに利用するのか

また、利用に当たり、どういう手順で進めていくか、どんな点に配慮しなければならないかを考えておく必要があります。

- (イ) 利用計画を明確にしておく
- (ロ) 学級生にもその利用目的を知らせる
- (ハ) 学習過程のどの段階で利用するのか

③ 話し合いの機会を持ち、発言しやすい雰囲気を作る

なるべく小グループによる話し合い(バズ・セッション ※12 ページ参照)を取り入れて、誰でも気軽に意見を出し合えるようにします。

※話し合いの学習形態

- (イ) 講義：小グループの話し合い、グループ別質問、指導助言
- (ロ) 問題提示：バズ・セッション、全体会発表、討議、指導助言
- (ハ) 映画(体験発表、ビデオ)、フォーラム：バズ・セッション、全体討議・討議  
発表を活発にするためには、バズ・セッションの持ち方、司会技術、記録の仕方など順番制にし、誰でもできるように努めましょう。

④ レクリエーションの適切な配慮

学習時間が長くなると疲労度も高くなり、集中力も減退するので気分転換も必要です。適当な休息としてレクリエーション、室内体操や簡単なゲームなど一息入れる工夫をしましょう。

## 8 学級の開級

- ① 運営委員会を開き、第1回学級（開級式・第1回学習会）の準備をする
    - (イ) 日時・場所を決める
    - (ロ) 開級式次第、進行・挨拶などの分担を決める
    - (ハ) 講師・助言者へ交渉する（1カ月前には終わっていることが望ましい。また、数日前に再度確認の連絡をする。）
  - (二) 学習内容・方法について確認する
  - (ホ) 予算を立てる
  - (ヘ) 学級生への出席案内・出席確認をする
  - (ト) 出席簿・記録簿・名札などを準備する
- ② 第1回学級を開催する  
運営委員の承認、各係の決定、学習計画やその他について協議をします。
  - ③ 第2回以降  
運営委員会は、学習終了ごとに開催し、当日の学習の反省・評価と次回の学習計画その他の準備をします。

## 9 学級の閉級

- ① 運営委員会を開き、最終回の学級（学習会・閉級式）の準備をする
  - (イ) 閉級式次第、進行・あいさつなどの分担を決める
  - (ロ) 最終回学級ならびに閉級式の通知…学級生へ
  - (ハ) アンケート調査配布
- ② 最終回の学習をする
- ③ 閉級式
- ④ 学級の本年度の活動・学習内容等についての反省会を行う

## 10 全般的反省と評価

### A 反省

- ① 反省会を持ち、実践への手立てを考える

日常の家庭教育の悩みは、講義や話し合いなどによって、その問題点や解決策が明確になるでしょうが、それらを理解するだけでなく、実践への努力がなければ学習の意味はありません。

学習過程の中でも、それぞれの悩み解消の貴重な体験談、成功談について発表する機会を作るとか、アンケート結果を土台にして学習についての反省会を行い、今後の心構えをつくるなどして、実践する能力を高めることが必要です。

また、運営委員会においても、学習日ごとに学級運営のあり方や学習の進め方について反省し、次回からの学級に役立てる努力が必要です。

② 学習のまとめをする

学習日ごとの学習内容のまとめや、学級生の感想文などを文集としてまとめることは、家庭教育の指針ともなり、また学習回想録として価値あるものになります。

③ 学習記録簿・会計簿など帳簿類を整理する

記録の意義は、講義や話し合いを効果的にし、内容を全員に周知することにあります。また、話し合いの結論や、どのような課題が生まれてきているかを明確にし、今後に役立ちます。

さらに、当日の欠席者に学習内容を具体的に伝える資料となります。

学級の運営費は、全てを補助金に頼ることなく、学級生自身もいくらか負担して運営にあてることが望めます。

なお、適切な経理を行い、帳簿等も正確に記帳し、教育委員会・学級生へ報告します。

B 評価

学習者が学習活動や学習内容に興味・関心を示し意欲的に学習に取り組み、満足感・充実感を味わえたかどうかを評価し、次会への参考資料とします具体的な評価方法としては、次のような方法が考えられます。

① 話し合いによる評価法

学習者が学習活動についての感想や意見を出し合ったものを評価するものです。参加者が自由に本音で話し合える雰囲気を作り出すことが大切です。それぞれの発言が相互に刺激し合い、より深い評価結果が得られることや、参加者が学習への取り組みについて自己評価ができるなどの利点があげられます。

② 自己評価による評価法

自分の学習への取り組みを振り返り、学習活動における学習目標がどのくらい達成されたかを調べるもので、次回への学習意欲を高めるのに効果的です。

【例】次のようなことについて自己評価する。

- (イ) 疑問点・問題点を解決しようとしているか
- (ロ) 疑問や問題意識をもって取り組もうとしているか
- (ハ) 考えたことを進んで発表しようとしているか

③ アンケートによる評価法

一番多く用いられている方法ですが、評価項目の量があまり多くなならないこと、ねらいが十分吟味されていること、内容がテスト的要素を含んでいないことなどについての配慮が大切です。また、アンケートの内容も、学習活動をめぐる諸条件よりも学習者の学習態度や努力、その成果を評価するものであることが望めます。

なお、アンケート結果が「要求」から「反省」や「意欲」につながるものであるようにしたいものです。

C 評価の例

① 主催者の評価例

○：よい △：ふつう ×：悪い

評価項目	評価	改善点
1 研修の目標が学習者によく理解されたか		
2 企画・立案の準備が十分だったか		
3 期間は適切であったか		
4 日時は適切であったか		
5 会場は適切であったか		
6 学習内容の配列は適当であったか		
7 講師の選定はよかったか		
8 テキストの作成はよかったか		
9 質問カード・評価カードの作成はよかったか		
10 班別学習の話し合いは十分であったか		
11 委員会活動は自主的に進められたか		
12 運営のための助言はよかったか		
13 学習者の意欲・相互の協力はどうか		
14 学習者と主催者の協力はよかったか		
15 周知の方法はよかったか		

② 学習者の評価例

評価項目	評価	改善点
1 学習したいと思ったことが学習できましたか		
2 分かりやすい学習内容でしたか		
3 学習の方法(講義・討議・実習など)についてはどうでしたか		
4 講師、助言者が話したことについてはどうでしたか		
5 参加しやすい日時であったと思いますか		
6 会場は学習しやすく整えられていましたか		
7 担当の職員の親切さ、心づかいについてはどうでしたか		
8 楽しい雰囲気の中で学習できましたか		
9 参加者の希望に沿って学習が進められましたか		
10 今日の学習全体についてはどうでしたか		



## Ⅳ 司会者の役割（任務）

### （1） 思考過程の援助

- ① 検討する問題点をはっきりさせること
- ② 論理的な考え方の本筋を追及し、小さな問題にとらわれないこと
- ③ 検討材料を分析し、整理しまとめること

### （2） 会員に対する配慮

- ① 開会・閉会時刻を守ること
- ② 楽しい雰囲気を作ること
- ③ 公平に発言の機会を与えること
- ④ 発言者や聞き手に対して、熱意と感謝の念を持つこと

### （3） 司会者の心得

- ① なごやかな雰囲気をつくること
  - （イ） 言葉は普段の言葉ではっきりと
  - （ロ） 慣れない人をそれとなく助ける
  - （ハ） 休憩やレクリエーションを入れる
- ② 討議を順序よく進めること
  - （イ） 適当な時期ごとに話し合いを整理する
  - （ロ） 話の後戻りを避ける
  - （ハ） テーマを事前に研究し、腹案を持つ
  - （ニ） 話し合いの筋道を追い、結論を急がない
- ③ 脱線や長談義を防ぐこと
  - （イ） 脱線も時にはよいが、早く本筋に戻す
  - （ロ） 長談義は要領よく抑える
  - （ハ） うまく言えなくて長くなっているときは助ける
- ④ みんなに発言させること
  - （イ） 人前で思うように話せない人には指名して発言させる
  - （ロ） 参加者には絶えず注意し、公平に発言の機会を与える

## V 学級組織

### (1) 構成例

係名	仕事の内容
学習	講師・助言者の依頼、教材・教具の準備
司会	学習の進行
出席	会場の受付と出欠点検、出席簿の管理
会場	会場設営と後片付け
記録	学級日誌の記入・資料などの保管
レクリエーション	レクリエーションの計画と実施
広報	学級生への連絡、チラシ、学級だよりなどの発行と配布
評価	毎回の学習と学級運営全体について評価 アンケートの作成・配布・集計など
会計	金銭出納簿の記帳、領収書保管



### 運営委員会

役員選出・役割分担  
予算を立てる

学習計画・年間計画の検討  
学習の期日を決める

## (2) 討議の方法

討議の方法にはその目的や内容、また参加者の人数によって様々な方法があります。日常よく使われる討議の方法を2つ紹介します。

	参加の形態	方法	留意点等
ルブ1テドンウラ		<p>参加者はみな平等の立場で円卓（四角でもよい）を囲み、リラックスした気分で意見を出し合い、全員が納得した上で結論を導き出します。</p> <p>司会者、記録者を互選し、司会者、記録者とも他と同じに発言して構いません。</p>	<p>課題をはっきりと提示し、参加者が正確に理解していることが大切です。</p> <p>参加者人数は数名～20人位までが適当です。</p>
ンヨシッセ・ズバ		<p>全体をそれぞれ5～6人のグループに分け、与えられたテーマについて話し合います。</p> <p>グループの議長は話し合われた内容をまとめ、それぞれのグループごとに発表します。</p> <p>全体の議長は、各グループから出された意見を整理し、討議すべき問題点をまとめ、全体で話し合ったり、グループでさらに話し合ったりします。</p>	<p>メンバーのひとりひとりが討議に参加する形となるので、メンバーの参加意識が高まりますが、グループの議長は無理に結論を出そうとせずに出された意見を要領よくまとめ、発表するようにした方がよいでしょう。</p> <p>この討議は別名6・6討議またはブンブン討議とも呼ばれます。</p>

## VI 家庭教育学級の学習プログラム参考例

【幼稚園児、保育園児を持つ親向け】

回	学習課題	学 習 内 容	学習方法
1	開級式 家庭教育学級について	家庭教育学級で学ぶことの意義 学級の運営と役割分担	講 義 話し合い
2	母と子の遊び	お母さんとできる体操 指遊び・歌遊び、ゲーム	実 技 話し合い
3	遊びの意味	遊びの意義 遊びを見つけ作り出す子	講 義 話し合い
4	集中力・根気強さの芽 生え	熱中する姿から 試行錯誤しながら 成就感と意志力	スライド 話し合い
5	生活の中のしつけ	環境としつけ しつけの段階 やる気としつけ	実践発表 話し合い
6	ぼくひとりで やれるよ	やる気を助けるために 母親の役割	映 画 話し合い
7	もうすぐ1年生	幼児と言葉 いい1年生とは	パネル討議 話し合い
8	幼児の絵の見方	絵とつぶやき 絵の見方・扱い方	講 義 話し合い
	閉級式		

【小学生を持つ親向け】

回	学習課題	学 習 内 容	学習方法
	開級式		
1	人格形成としつけ	家庭で行うべきしつけの内容 効果的なしつけをするには	講 義 話し合い
2	上手なほめ方と 叱り方	ほめること、叱ることの教育的意味 発達に応じたほめ方、叱り方	映 画 話し合い
3	「人権啓発推進協議 会全体会」	「人権啓発推進協議会全体会」に参加	講演会
4	視察研修	子育て・教育の活動をする団体・施設（※1） へ視察研修	マイクロバス
5	人間の尊重を求めて	人権と差別 同和教育を正しく認識する	映 画 話し合い
6	それぞれの家庭教育 学級	各家庭で実施する「家庭教育学級」の事例発 表、不安・疑問について討議	グループ 討議
7	地域活動への参加	年の違う集団での活動で学ぶこと	講 義 話し合い
8	言葉遣いと礼儀	現代っ子の言葉遣いと礼儀 正しい言葉遣いと礼儀を身に付けさせるには	映 画 話し合い
	閉級式		

※1…生涯学習課が情報提供をいたしますので、それぞれの学級で各団体にアポイントをお取りください。

【中学生を持つ親向け】

回	学習課題	学 習 内 容	学習方法
1	開級式 家庭教育のあり方	学級の運営と役割分担 家庭教育の現状と問題点 子どもの非行と指導のあり方	話し合い 講 義
2	ネット社会について	インターネットや携帯電話など現代を取り巻く問題点について	グループ 討議
3	「人権啓発推進大会」	都城市教育委員会主催の「人権啓発推進大会」に学級生が参加	講演会
4	言葉遣いと礼儀	対人関係における言葉遣いと礼儀の持つ意味 現代っ子の言葉遣いと礼儀 正しい言葉遣いと礼儀を身に付けさせるには	映 画 話し合い
5	視察研修	子育て・教育の活動をする団体・施設（※1）へ視察研修	マイクロバス
6	男女交際について	男女交際の実態 男女交際のあり方	映 画 話し合い
7	犯罪若年化について	現代の社会問題である子どもの凶悪犯罪について事案等を基に考える	話し合い
8	健康と食生活 閉級式	子どもの健康管理 体力と栄養	講 義 話し合い

※1…生涯学習課が情報提供をいたしますので、それぞれの学級で各団体にアポイントをお取りください。